

# 見本

幼稚園教諭・保育士養成課程

三訂

## 幼稚園・保育所実習ハンドブック

田中まさ子 編

(株) みらい

## はしがき

保育者の養成課程において、実習がますます大きな役割を果たしていることはいうまでもありません。

しかし、一方では、養成校の学生のみなさんも子どもに触れ合う機会が乏しくなり、実習に行ってもどのようにかかわればよいのかとまどっているという状況があります。本書は、そうした学生の悩みや不安を受けとめつつ励ましながら実習に送り出している養成校の先生方とさまざまな学生を受け入れている保育現場の先生方が、若い人々への応援の気持ちを込めて執筆しました。少しでもお役に立てば幸いです。

本書の特徴を3つあげてみましょう。

1つ目は、実習をダイナミックなプロセスとしてとらえたことです。実習の準備から終了までの流れを、第1章から第9章にかけて解説し、そのなかで次々に生じてくること、実習生が行動すべきこと、実習園が要望することなどを煩雑な事務手続きを含めて具体的に説明しています。ですから、どの段階で何をどのように準備するのか、見通しをもって行動するための目安として本書を使っただけであればと思います。また、実習のプロセスを重視するために幼稚園・保育所実習で共通する部分はいっしょに説明し、区分する必要がある部分だけは別個に説明しています。このようなスタイルは、幼保一元化が進行している現在ではむしろ実情に添っているともいえます。

2つ目は、これからの幼稚園・保育所に期待される役割や家庭の実情を視野に入れて執筆したことです。保育は子どもを対象とするものですが、その子どもの生活の場である家庭がおかれている状況を見無視するわけにはいきません。子どもと家庭、社会との繋がりをふまえたうえで、子どもへの理解と支援のあり方を実習生なりに見出してほしいと願って執筆しました。

3つ目は、上掲のねらいを具体化した実践事例や指導計画などを多く用いたことです。実際に園で使われている指導計画、実習生が作成した指導案や記録などを紹介しました。これらに対しては、ご意見やご要望も多々あると思います。どうぞご意見をお聞かせ下さい。

以上の3点を重視するとともに、新しい保育士養成カリキュラムに対応できるよう全面的に改訂しました。

最後に本書の刊行にあたって、実習指導に奮闘しつつ執筆の労をとっていただいた先生方、株式会社みらいの安田和彦さんに心からお礼申し上げます。

2011年2月

編者 田中 まさ子

## ◎もくじ

はしがき / 3

## 第1章 幼稚園・保育所実習とは ————— 11

1. 幼稚園・保育所実習を通して学ぶこと ……11
  - (1) 実習の意味と目的 / 11
  - (2) “保育者”を実感する / 12
  - (3) 自己課題を明確にする / 13
2. 実習を通して考えるポイント ……13
  - (1) 幼稚園・保育所、認定こども園の理解について / 13
  - (2) 子どもの理解について / 17
  - (3) 保育者の理解について / 18
  - (4) 実習生の自己理解について / 20
3. 実習園が望む実習生とは ……21
  - (1) 保育者に求められる資質 / 21
  - (2) 実習生としての心構え / 22
4. 実習の概要 ……23
  - (1) 教育実習（幼稚園）と保育実習（保育所）の履修方法 / 23
  - (2) 幼稚園・保育所実習のプロセス / 25

## 第2章 実習に向けての準備 ① ————— 29

—事前指導から事前訪問まで—

1. 養成校でのオリエンテーション（事前指導） ……29
  - (1) 事前指導の目的 / 29
  - (2) 事前指導の内容 / 29
  - (3) 実習園の決め方 / 30
  - (4) 実習の依頼の仕方 / 31
  - (5) 実習に必要な書類・事務手続き / 32
2. 実習園でのオリエンテーション（事前訪問） ……34
  - (1) 事前訪問の目的 / 34
  - (2) 電話での依頼の仕方 / 35

- (3) 事前訪問に必要な書類・持ち物 / 36
- (4) 服装、髪型、身だしなみ、あいさつ、言葉遣い / 36
- (5) 実習計画の作成にあたっての確認事項 / 37

## 第3章 実習に向けての準備 ② 39

—事前訪問後から実習直前まで—

- 1. ことろと体の準備 ……39
- 2. 実習スケジュールとは ……40
- 3. 実習目標・課題の設定 ……44
  - (1) 実習におけるさまざまな課題 / 44
  - (2) 自己課題の設定 / 44
- 4. 保育教材の準備 ……45
  - (1) 教材準備の進め方 / 45
  - (2) 教材準備の留意事項 / 45

## 第4章 事前学習 47

- 1. 子どもたちの理解のために ……47
  - (1) 子どもを理解すること / 47
  - (2) 子どもの発達の道筋 / 48
  - (3) 障がいのある子どもの理解 / 52
  - (4) 子どもの健康・安全・衛生面の理解 / 56
- 2. 保育者の理解のために ……58
  - (1) 『幼稚園教育要領』から保育者の役割を考える / 58
  - (2) 『保育所保育指針』から保育者の役割を考える / 59
- 3. 実習園の理解のために ……60
  - (1) 実習園の教育内容・保育方針を考える / 60
  - (2) 保育所の社会的役割を考える / 62
  - (3) 幼稚園の社会的役割を考える / 64

## 第5章 指導案の立て方

67

1. 指導案（日案）作成にあたって ……67
  - (1) 責任実習と指導計画 / 67
  - (2) 指導案の作成に関する留意事項 / 68
  - (3) 実習における指導案作成の実際 / 69
  - (4) 実習中の行動目標・行動計画 / 71
2. 部分実習指導案の書き方とポイント ……74
  - (1) 3歳未満児の場合 / 74
  - (2) 3歳以上児の場合 —設定保育— / 78
  - (3) 3歳以上児の場合 —遊びを中心とした保育— / 82
  - (4) 3歳以上児の場合 —縦割り保育— / 84
3. さまざまな全日実習指導案 ……85
  - (1) 3歳未満児の場合 / 85
  - (2) 3歳以上児・幼稚園の場合 / 92
  - (3) 3歳以上児・保育所の場合 / 97

## 第6章 実習記録の書き方

105

1. 実習記録はなぜ必要か ……105
2. 記録のポイントを定める ……106
3. さまざまな実習記録 —保育実習から— ……107
  - (1) 事前訪問までの記録 / 107
  - (2) 実習日誌 / 110
  - (3) 個人記録 / 113
  - (4) 実習終了時の記録 / 113
4. 実習記録のさまざまな記述例 —教育実習から— ……115
  - (1) 実習日誌 / 115
  - (2) 個人記録 / 118
  - (3) 研究保育後の記録 / 120
  - (4) 実習終了時の記録 / 121

1. 教育実習前期で学ぶこと ……123
2. 教育実習前期の課題 ……124
  - (1) 幼稚園について学ぶ / 124
  - (2) 子どもについて学ぶ / 124
  - (3) 先生から学ぶ / 126
3. 教育実習前期の観察実習 ……126
  - (1) 観察実習とは / 126
  - (2) 観察実習のポイント / 127
4. 教育実習前期の参加実習 ……128
  - (1) 参加実習とは / 128
  - (2) 参加実習のポイント / 129
5. 中間反省会 ……130
6. 教育実習後期で学ぶこと ……131
  - (1) 教育実習後期の目的と内容 / 131
  - (2) 教育実習後期の取り組み方 / 132
7. 教育実習後期の課題 ……134
8. 教育実習後期の観察・参加実習 ……135
9. 教育実習後期の責任実習 ……136
  - (1) 部分実習 / 136
  - (2) 全日実習 / 137
10. 研究保育 ……138
  - (1) 研究保育とは / 138
  - (2) 研究保育における留意事項 / 138
  - (3) 研究保育後の協議について / 139
11. 全体反省会 ……140

1. 保育実習Ⅰ（保育所）を通して学ぶこと ……143
  - (1) 保育実習の目的 / 143
  - (2) 保育実習の意義 / 143
  - (3) 保育実習Ⅰにおける5つの目標 / 144
  - (4) 保育実習Ⅰ（保育所）の内容 / 145
2. 保育実習Ⅰ（保育所）の課題 ……146
  - (1) 養成校が求める実習課題 / 146
  - (2) 実習生の自己課題 / 147
3. 保育実習Ⅰ（保育所）の観察・参加実習 ……147
  - (1) 観察実習のポイント / 148
  - (2) 参加実習のポイント / 149
4. 保育実習Ⅰ（保育所）の責任実習 ……149
  - (1) 部分実習のポイント — 3歳未満児クラス — / 150
  - (2) 部分実習のポイント — 3歳以上児クラス — / 151
  - (3) 全日実習のポイント — 3歳未満児クラス — / 152
  - (4) 全日実習のポイント — 3歳以上児クラス — / 152
5. 保育実習Ⅱを通して学ぶこと ……153
  - (1) 保育実習Ⅱの目標 / 153
  - (2) 保育実習Ⅱの内容 / 153
6. 保育実習Ⅱの課題 ……154
7. 保育実習Ⅱの観察・参加実習 ……155
8. 保育実習Ⅱの責任実習 ……156
  - (1) 部分実習 — 3歳未満児クラス — / 156
  - (2) 部分実習 — 3歳以上児クラス — / 156
  - (3) 全日実習 — 3歳未満児クラス — / 157
  - (4) 全日実習 — 3歳以上児クラス — / 157
9. 研究保育 ……158
  - (1) 研究保育の目的 / 158
  - (2) 研究保育への取り組みについて / 159
10. 反省会 ……159
  - (1) 中間反省会 / 160
  - (2) 全体反省会 / 160

## 第9章 実習を終えて 163

1. 記録のまとめ ……163
2. 礼状を出す ……163
3. 実習報告と意見交換 ……166
4. 幼稚園・保育所の評価と自己評価 ……167
  - (1) 評価とは何か / 167
  - (2) 幼稚園・保育所の評価 / 168
  - (3) 自己評価の大切さ / 169
5. 養成校でのカウンセリング ……170
  - (1) 実習前の不安 / 170
  - (2) 実習中、実習後の相談 / 171
6. 実習後の実習園とのかかわり ……172

## 第10章 幼稚園・保育所実習Q&A 173

- Q 1 実習ノートの取り方が分かりません / 173
- Q 2 ピアノが苦手です / 174
- Q 3 子どもや赤ちゃんとの付き合いが分かりません / 174
- Q 4 子どものケガへの対応について / 175
- Q 5 遊びの援助が難しい / 176
- Q 6 もし、気になる子どもがいたら… / 177

## 資料：保育教材の紹介 179

1. 「音楽で動物遊び」 / 179
2. 「ことばで手遊び1, 2, 3 (ワン、ツー、スリー)」 / 180
3. 「ころころたまご」— 3歳児のために— / 181
4. 「かなづちトントン」— 4歳児のために— / 182
5. 「いもがらにんじん」— 5歳児のために— / 183

第  
1  
章

## 幼稚園・保育所実習とは

## 1 幼稚園・保育所実習を通して学ぶこと

未知のものと出会う時、人は誰しも不安を抱くものです。実習が始まるまでは誰もがそんな心境です。しかし、どれだけ不安に思っても何も解決しません。それよりも「どんな子がいるんだろう?」「こんなことをして子どもたちと遊んでみよう」と、幼稚園や保育所で生活する子どもたちとの出会いに期待をふくらませてみませんか? きっとあなたのことを大好きになってくれる子がいるはずです。なかには、実習を終える時に「エ〜ッ。もう来ないの?」といってくれる子もいるでしょう。そして子どもたちと別れる時に、実習生のみなさんの何人かは涙を流すかもしれません。

実習期間中には、さまざまな場面で自分のところが揺れ動くことでしょう。実習とは、そのような体験を通して、子どもを、保育を“実感すること”なのです。

## (1) 実習の意味と目的

実習生のみなさんは、今までに、講義・演習科目を通じてさまざまな視点から乳幼児や保育について学び、少しずつ保育に関する基礎的な力が身についてきていると思います。

幼稚園・保育所実習の目的は、それぞれの実習までに大学で学んできた理論を、実践の場で実際に子どもとかかわりをもったり、保育を組み立てたりしながら身体を通して実感することです。そして、講義・演習科目では味わえない臨場感によって“子ども”や“保育という営み”に対する新たな気づきを得ることです。実習における具体的な学びの観点は次のような点です。

- ①幼稚園・保育所の社会的機能を理解する
- ②保育者の役割を理解する
- ③保育という営みを理解する
- ④乳幼児を理解する
- ⑤指導計画の作成について理解する

## (2) “保育者”を実感する

これまでの大学生活では、漠然としかイメージできなかった保育者の役割を実感させてくれる場が実習です。しかし、実習によってはじめて集団保育を経験した時には、おそらく自分が保育者であることさえ自覚できないまま終わってしまうかもしれません。

たとえば、実習初日に「あんた誰？」と子どもに聞かれることがあります。また、子どもに急に自分の髪の毛を引っ張られたり、身体を叩かれたりすることもあります。その時あなたならどのように対応しますか？

子どもたちは自分なりの表現方法であなたとかかわりをもとうとします。それは子どもなりの興味や関心の表れなのです。その時、あなたは子どもたちの表現をどのように受け止めるのでしょうか。また、どのような表現を子どもたちに向けて返していくのでしょうか。実は、すでにそこに自分自身の保育者としての姿勢が表れているのです。また、その過程で、“今”ここにいる自分自身の保育観や児童観、さらには人間観への気づきを得ることもあるのです。ここに実習生が書いた記録があります。

SちゃんとMちゃんは、よくいっしょに遊んでいる。Sちゃんは、実習第1日目から私のところに寄ってきて「先生、いっしょに遊ぼう」などと気さくに話しかけてくれる子である。また、私が「こんなことして遊ぼうか」というと、「うん、それしよ」ととても素直な子である。しかしMちゃんは、私が「～しよ」というと、「そんなこといや」といい、私が「こんなこと知ってる？」と尋ねると、「そんなこと知ってるわ」といい放つ。正直、憎たらしいと思う。子どもらしくないとも思う。でも考えてみれば、私は今まで自分の思い通りになる子ばかりを、また自分に逆らわない子ばかりを「かわいい」と思っていたのかもしれない。それが子どもらしさだと思っていたところもある。自分のなかに子どものことを思い通りにしたいという気持ちがあったのかもしれない。

どの先輩たちも、実習には今の自分を見つめ直し、自分を高めることができる機会があったと感じています。実習は、自分自身を成長させるきっかけ

なのです。

### (3) 自己課題を明確にする

実習では、指導していただいた先生からはもちろん、子どもたちからもさまざまな課題を突きつけられるでしょう。将来保育者になるために、現在のあなたに不足していることは何なのか、自分の課題と向き合うことになるのです。つまり、自己課題を明確にすることが実習です。

A君といっしょに、廃材を利用してロボットをつくっていた。牛乳パックをガムテープでくっつけながらつくっていたのだが、一人では思い通りにいかず、私を手伝っていた。するとそこにOちゃんが「先生いっしょにままごとしようよ」といった。今はA君の手伝いをしているので無理だと伝えると、すねてしまった。それぞれの思いを大切にしたいと思うのだが、なかなかみんなの気持ちに応じることができないことがもどかしい。実際一人担任だったら、どのようにそうした事態に応じていけばよいのだろうか。

子ども一人ひとりの個に応じることの大切さは、講義科目を通して感じてきたのですが、この記録には、現実問題として一人ひとりの子どもにどう対応しているのか分からず、困っている実習生の姿が表れています。

実習では解決できなかった課題が無数に出てきます。そうした課題は、実習事後の指導、他の講義・演習科目、専門ゼミナールなどを通して、さらに深めて考えていくことが重要です。つまり、その過程が自分の保育観の構築へとつながっていくのです。

## 2 実習を通して考えるポイント

### (1) 幼稚園・保育所、認定こども園の理解について

#### ① 幼稚園実習と保育所実習

保育者をめざしているあなたは、どのような保育施設の保育者になろうとしているのでしょうか。大別すると、保育者には幼稚園教諭と保育士という2種類の職種があります。幼稚園で働くためには幼稚園教諭免許状が必要と

る者が多い養成校では「保育実習Ⅱ」を必修科目としているケースが多いようです。

### ● 実習生へのメッセージ ①

#### 教育実習を振り返って

「教育実習」という言葉を聞くだけで、当時のさまざまな思いが甦ってきます。大学2年次は1週間と短いこともあり、「幼稚園とはこういう所なんだ」「子どもと過ごすのは楽しい!」という思いを抱いて終わりました。続く3年次は、2週間という期間のなかで部分実習をさせていただきました。この時はじめて子どもたちの前に立ちましたが、この実習を終えて感じたことは、「難しい…」ということでした。そして4年次は最後の実習だったので、1日子どもたちの前に立つ総合実習を行いました。案の定、失敗をたくさんしました。そして、同じくらい多くのことを学びました。「保育はとても大変で難しいことが多いけれど、その分、嬉しいことや楽しいこともたくさんあるんだ」と充実した気持ちになりました。また、実習をさせていただいた3つの園の保育方針が少しずつ異なっていたので、自分のめざす保育像も実習を通して考えることができました。

実習に行く前は、未知の世界を想像して不安に押しつぶされそうになるでしょう。しかし、一度子どもと過ごしてみると、不安な気持ちも吹き飛ぶくらいの喜びを感じることができると思います。また、「失敗したらどうしよう」と悩むこともあると思います。私もそんな思いをしてきました。そんな時、担当の先生が、「失敗をしてみえてくるものはたくさんあるわよ。かえって何も失敗をしないほうが不安にならないかしら」というようなことをおっしゃいました。この言葉を聞いて、実習生という立場の甘えかもしれませんが、「やってみなければ分からない。とにかく自分なりにやってみよう」という気持ちで実習をすることができました。

教育実習で多くのことを感じたり、学んだりするためには、まず自分自身が、前向きな姿勢でいることが大切だと思います。そして、学ばせて頂くという謙虚な気持ちで臨むことも必要なのではないのでしょうか。教育実習で得たことは、保育者として働く現在、とても大きな糧となっています。

東洋英和幼稚園 平田智子